

## 平成 23 年度 第 3 回佐鳴湖ワーキンググループ会議 議事要旨

日 時： 平成 23 年 11 月 26 日（土）

14：00～17：00

場 所： 佐鳴湖公園北岸管理棟

出席者： 13 名

事務局 9 名

### 1 開会

#### ● あいさつ（司会進行：事務局）

- ・ ワーキングの前に、佐鳴湖感謝祭をご紹介する。お手元のチラシのとおり、気軽に佐鳴湖に足を運んでいただける楽しいイベントを企画した。佐鳴湖の未来を考えようなど、地域の皆さんの活動を中心とした様々な取り組みも紹介している。地元に戻られて、ぜひイベントについてお声掛けをお願いしたい。広報としては、広報はままつへの掲載、入野・富塚・佐鳴台自治会は全戸回覧、駅のポスター掲示、バスや電車の中吊、ホームページへの掲載等を考えている。また、資料がバラバラになってしまうとのご意見をいただいたので、本日ファイルをご用意した。よろしければ、第 1 回、第 2 回の資料もファイルしてご活用いただきたい。本日も水と菓子をを用意したので、リラックスして自由な発想でご意見をいただき進めてまいりたい。

### 2 自己紹介（前回、前々回欠席者）

#### ● 各自、一言ずつ自己紹介

### 3 ワーキンググループ会議の主旨（事務局）

- 初めて参加される方もいるため、簡単にワーキンググループ会議の位置づけについて説明した。

### 4 河川の流量変化について

#### ● 河川の流量の変化と水質浄化についてデータをもとに解説いただいた。

- ・ 段子川の流量が急激に減っている。流量の減少は滞留日数が長くなるという課題もあるが、下水道整備の効果が表れているということである。
- ・ 硝酸態窒素が減少していない。これは、下水道以外の畑や地下水由来であると考えられる。この面源負荷をこれから減少させるには、企業からの負荷があれば別だが、今後下水道整備を進めてもあまり期待できない。大きな課題である。ただし、植物プランクトンの増殖には窒素とリンのバランスが重要なので、今効果が出ているリンを減らし、流量を増やしていけば、湖内のプランクトンの増殖を抑えることはできると考えている。
- ・ COD と BOD の減少は、下水道整備の効果が表れている。

#### 【質疑】

- ・ 硝酸態窒素以外の窒素には、どんなものがあるか。（メンバー）
- ・ 亜硝酸態、アンモニウム態が無機態窒素と言われるもので、それ以外に有機態窒素がある。（発表者）
- ・ 一番問題なのが硝酸態窒素か。（メンバー）
- ・ 量が多いのが、硝酸態窒素である。（発表者）

- ・ 硝酸態窒素の汚染源は何か。(メンバー)
- ・ 畑由来が多いと考えられる。(発表者)
- ・ リンが減っていることについての対策は、何がやられているか。(メンバー)
- ・ 下水道接続により、家庭排水の流入が減った効果であると思う。(発表者)
- ・ 先程のお話のとおり、段子川の水量の減少は、主に下水道接続によるものである。他には周辺の開発で雨水が浸透せずに流れてしまうことが影響していると思われる。硝酸窒素については、推測であるが、農地からの影響ではないかと思う。リンは家庭からの排水、主にし尿であるため、これも下水道接続により減少している。(事務局)
- ・ 9月以降、佐鳴湖の魚がほとんどいなくなったように思う。この中で釣りをした方がいたら、教えてほしい。漁協の方は、赤潮でウナギが逃げたのだと言っていた。私はシジミの飼育をしているが、テナガエビが極端に少ない。また、この時期にニホンイサザアミが大量発生することがあるが、全く見られない。何か環境が変わったような気がする。また、通常8～9月の南岸は異臭がするが、今年はしなかった。逆に異常な感じがしている。(メンバー)
- ・ イサザアミは2～3週間前にはたくさんいた。(発表者)
- ・ 大きいハゼがよく釣れているようだ。(メンバー)
- ・ 赤潮はそれほどひどくない。今年は高温であるが、台風の影響で、去年とは水質が違っている。温度が急激に上下して、塩分が急激に低下したのが、ウナギが見られない原因かもしれない。ただし、魚の生息にとって悪くなっているとは思えない。去年よりは今年の方がシジミにとっては良いと思う。(発表者)
- ・ シジミは影響を受けているようには見えない。(メンバー)
- ・ 新しい情報として、昨日公表された昨年度の全国の水質ランキングによると、佐鳴湖は2年連続ワースト5から外れた。平均CODは8.1mgであった。(事務局)
- ・ 今日の新聞で9位と出ていた。もう少し詳細を聞きたい。(メンバー)
- ・ 環境省の発表はワースト5のみで、9位というのはこちらの集計結果である。去年は、我々が調べた結果では10位であった。(事務局)
- ・ 今後の議論の参考にしていきたい。(事務局)

5 第2回ワーキンググループ会議の整理(振り返り) (事務局)

- 検討用資料に基づき、第2回ワーキンググループ会議の整理(振り返り)を行うと同時に、ワークショップの進め方について説明した。

6 ワークショップ – ①問題解決の方策(アイデア出し) –

- 「水質・水量に関するグループ」「佐鳴湖自体・周辺地域に関するグループ」の2グループに分かれて、問題解決の方策のアイデア出しを行った。また、重要度が高く優先的にやった方がよいものに印を付けた。
- 作業後、発表者が検討結果を発表し、全体でも意見を出し合った。

発 表 <水質・水量に関するグループ>

【意見、質問】

- ・ 湧水を増やすことは大賛成だ。「佐鳴湖自体・周辺地域に関するグループ」でも湧水の話が出た。開発したい業者もいる。今ある佐鳴湖流域の森林を守るということをもっと強調した方がよい。(メンバー)

- ・ 湧水が減った原因は、自衛隊基地が出来たこと、東名高速道路の建設で水を浜名湖へ流したことが大きい。(メンバー)
- ・ 佐鳴湖は水が下流から逆流し、塩分濃度が上がってきている。前回の発表によると、植物プランクトンも変化しているようだ。このことに対して、議論はされたか。(メンバー)
- ・ 今回は、時間の関係で、塩分濃度までは議論できなかった。(事務局)
- ・ 個人的な意見ではあるが、問題にするほど高塩分化にはなっていないと考えている。今、年間5パーミルぐらいで、宍道湖と同じくらいである。逆流が悪いと言うが、逆流は自然の現象である。問題は人の営みであって、逆流するからこそ、低層で水が動き、無酸素化しない。(メンバー)
- ・ 最初は、佐鳴湖の上流に注目し、下水道普及率を高めてきた。しかし途中で、下流からの逆流で佐鳴湖に負荷がかかるということで、浚渫などの下流の対策も講じてきた。そのような総合的な対策をこれからも考えていかなければいけない。(メンバー)
- ・ 逆流の問題は、新川の放水路を作ったことが大きく影響している。放水路の影響を調べる必要がある。(メンバー)
- ・ 放水路によって滞留日数が下がって、CODを下げたという効果はあると思う。(メンバー)
- ・ 面源負荷という言葉自体がわかりにくい。もっとわかりやすい言葉にしたい。(メンバー)

#### 発 表 <佐鳴湖自体・周辺地域に関するグループ>

##### 【意見、質問】

- ・ 東京の方には、家庭用雨水貯留を補助する制度がある。浸透水を増やすにはいい方法であると思う。(メンバー)
- ・ 湖の生態を長い目で見ると、最終的には尾瀬沼のような湿地帯になる。そうすると、佐鳴湖という姿を残すには、泥と砂礫を分別し、砂礫は渚を作る、泥は固化して山などを作るといったことが必要だと思う。また、佐鳴湖をきれいにするという点で、区域を区切って行政と共に管理することが必要ではないかと思う。どのような団体が参加してくれるかはわからないが、クリーン作戦の継続は必要である。(メンバー)
- ・ 湖岸に立つと、冬の寒い時期以外はいつもミシシippアカミミガメを見る。以前は少なかったが、この周辺でどんどん繁殖して問題になっている。夜店のミドリガメを飼いきれなくなり、湖に放すのだが、湖の中のものをどんどん食べてしまい、食べるものが無くなると陸上の草を食べている。制度的に駆除することに問題があるのか、問題がなければ積極的に駆除したい。ハクレンも外来種だが、今後増えることはないと思われる。
- ・ カメは陸に卵を産むので、気をつければ卵が取れるだろうか。(メンバー)
- ・ ちゃんと研究してみないとわからない。アカミミガメの研究者は少ない。静岡大学に居られるが、浜松周辺にはいないはずである。(メンバー)
- ・ 生物だけでなく、地質も地域の歴史も総合的にわかる、イメージは琵琶湖博物館のようなものができればありがたい。予算も伴うし、収集もしなければならぬが、佐鳴湖学習が進む。(メンバー)

ワークショップ ― ②将来像の検討 ―

- 将来像のイメージについて、事務局から提示した4つのイメージ案を参考に、各自発表した。
  - ・ <レジャー・観光> 浜松駅から歩いて浜松城、博物館そして水のきれいな佐鳴湖。徳川家康が着いたところから屋形船で雄踏を通過して佐鳴湖に行くような船のコースの話がある。歴史を感じる、大きな観光になるかもしれない。また、富士見橋から富士山が見える、逆さに見るというのもある。
  - ・ <自然・生物> 花と緑の佐鳴湖
  - ・ <自然・生物> 生物の豊かな湖棚、集客ができる面白い発想  
市制 100 周年のグランドデザインの中の佐鳴湖という考えも必要
  - ・ 誰でも行ってみたいくなる魅力がある佐鳴湖
  - ・ <自然・生物> 生命の源、混植で森をつくり（苗を市民が育てて）水を増やし、ヤマトシジミ復活を目指す
  - ・ <自然・生物> 見てきれいな花と緑で心癒される
  - ・ <水質・水量> 佐鳴湖は「浜松の澄んだひとみ」  
入野南岸道路から北は都市計画で公園になっているので、北岸の次は南岸を整備してもらいたい。
  - ・ <自然・健康> 市民の宝 佐鳴湖大好き
  - ・ <自然・生物> 四季折々の花、桜などを見られたらいい
  - ・ <環境活動> 市民がみんなでつくる佐鳴湖
  - ・ 全体としては、自然・生物という視点が多かったが、これらを整理して、自然・生物の視点を大事にしながらも、水質や活動のしかたなども考え、佐鳴湖のイメージを再度つくって、また皆さんに提示したい。（事務局）

7 閉会

- あいさつ （事務局）
  - ・ 佐鳴湖をまちづくりのシンボルとして考えていくことが、ひいては水質の浄化になるように思う。次回の開催日は、12月23日（金）を予定する。後日開催通知を送付する。
  - ・ 佐鳴湖感謝祭では、エコファーマーの取り組みも紹介しているので、よろしくお願ひしたい。

以上

赤文字：第3回ワーキンググループ会議で出された意見  
 黄塗り：優先的にやりたいもの

区分	考えられる方向性 (基本方針)	課題・問題点		対策案	
				地域	行政
水質・水量に関すること(湖内対策)	■水質、水量の向上	水量	湧水が少なくなった	(実施中) 雨水浸透ますの設置 ・雨水浸透ますの普及度が低いため、家庭にポリタンク等を設置して雨水を溜め、散水(水撒き)等に使用する	(実施中) 雨水浸透ますの設置 ・雨水浸透ます設置の義務化(特に新築住宅について流域全件:平等化) ・ <b>雨水浸透ますの事業拡大(5年計画で完成)</b> ・ <b>道路を透水性舗装にする(雨水浸透対策の拡大)</b> ・根川に湧水を増やす(地下水)、根川湖岸を砂礫にする ・ <b>3面張りの川を2面張りに改修する</b> ・湧水を増やすために湧水池を復活(例:太刀洗池) ・ <b>湧水池をつくることで、きれいな水でイメージアップを図る</b> ・段子川の河床改修を上流へも拡大する(御前谷も) ・新川、段子川の水量を増やすために、どうするか検討する ・ヘドロを取り除き、穴を開けて湧水の自噴に期待する ・最終的には天竜川の清水を流入させることも検討する ・導水の問題点は何か整理する
		COD改善	・夏のCOD低下 (8.0mg/l) ・目標値を設定してほしい(通年8mg/l以下)まだ、通年8mg/l以下になっていない	(未実施) 直接浄化施設の維持管理の住民参加 (未実施) 市民協働によるせせらぎ水路の管理 (実施中) <b>下水道接続・合併浄化槽設置</b> (実施中) 下水道接続・合併浄化槽設置の啓発 (実施中) 事業所の下水道接続・排水処理 (実施中) 自然に優しい排水の啓蒙(各家庭でできること) ・面源負荷に対して地域で協力して行動する。 ・ <b>面源負荷について市民に啓発し、日常的な清掃活動が効果があることを知ってもらう</b> ・空き瓶、空き缶が落ちていたら拾う ・道路の清掃を行う(自分の家の前はきれいにする) ・道路の落葉を拾う ・道路の雑草をとる(自分の家の前は必ず) ・排水溝の清掃を行う ・浄化のメカニズムの解析、浄化実験、研修を行う	(未実施) 季節に応じた目標値を検討する (実施中) 直接浄化施設の活用 (実施中) <b>下水道の管渠整備</b> (実施中) 下水道接続・合併浄化槽設置の補助 (実施中) 下水道接続・合併浄化槽設置の啓発 (実施中) 事業所への下水道接続・排水処理の促進 ・下水道計画を市民にわかりやすく公表する (実施中) 佐鳴湖の水質の監視 ・水質に関する情報が市民に伝わっていないため、積極的に情報発信する ・COD改善は前任者の福田さんがシミュレーションした案をテーブルにのせて再検討し、費用対効果を確認してほしい。
		透明度改善 ・水色改善	汚れが目につく(透明度、ごみ) 透明度が低い(汚れが目立つ) 透明度の具体的なイメージが伝わらない。 見た目が悪い(水の色)	(実施中) <b>ヤマトシジミの再生</b> (未実施) 住民による水のEM処理実験 (未実施) 住民による水処理実験を行うグループを作る ・ <b>住民参加の活動をより積極的に行う</b>	・目標値を設定してほしい(50cm以上) ・透明度0.6mを目標にする ・美観・安全の観点からも透明度100cm(50cm)を目指す ・砂をいれ干潟作成、ヤマトシジミと併せて水浄化を図る。 ・水のEM処理実験を進める ・水処理実験を行うグループを作る (実施中) 直接浄化施設の活用 ・きれいな水にするために住民へ行政は何をするか示す(行動計画の作成)
		水温	湖水の温度が高い		・メガソーラー、ヒートポンプで熱の回収利用
		塩分濃度 逆流水	塩分濃度が高い値を示している。	(未実施) <b>市民協働により、水草を植える活動</b>	・現在の塩分適性の沈水植物の試験 ・塩水化防止のため、新川放水路の対策をすすめる ・新川に設置している水門の効果を検証
		総体的指標	五感で伝わる指標がない 情報が不足している	・ <b>もっと佐鳴湖を知ってもらう</b> (子どもも大人も現状をみていない) (実施中) 新指標水質調査等への参加 (実施中) 行政から機材を借りて自主的に調査 ・ <b>2年連続でワースト5から外れたことをPRする</b>	・佐鳴湖の新しい価値を発見し、それを発信してほしい (実施中) 新指標水質調査の実施 (実施中) 佐鳴湖独自の指標の設定(季節的なものも含む) (実施中) 簡易水質測定器の貸し出し

赤文字：第3回ワーキンググループ会議で出された意見  
 黄塗り：優先的にやりたいもの

区分	考えられる方向性 (基本方針)	課題・問題点		対策案	
				地域	行政
佐鳴湖自体に関すること	■親水機能の充実 (レクリエーション機能、景観形成機能)	底質改善	ヘドロ堆積の場所がある		<ul style="list-style-type: none"> <li>湖底のヘドロをふるい分けて、砂礫層と湖棚にする</li> <li>ヘドロを固化して山をつくり、グラススキー場とする</li> <li>湖底から砂を取り出し、ふるい分けして砂礫を残し、ヘドロを固化する</li> </ul>
		水辺環境	昔の湖岸に戻したい(砂礫の水辺)	(実施中) 市民によるヨシ刈り (実施中) 市民による清掃活動 ・佐鳴湖岸を範囲を決めて各グループが責任を持って清掃する。周囲6km→100mとして60グループ、50mとして120グループ ・地域参加で湖岸を再生し、憩いの場をつくる	(実施中) 行政によるヨシ刈り、補助 ・清掃活動に道具の補助や補助金を出す ・埋立て湖岸に砂礫を入れる ・御前谷排水路前に砂礫を入れる、湖棚の造成 ・なぎさを増やす(砂礫をなぎさにする) ・湖棚を増やす(ヘドロを回収し湖棚にする) ・沈水植物を湖棚(50%以上)に植える ・水辺空間を周辺路から見やすくするため、雑木・生垣を間引き、低くする
		レクリエーション、環境学習	公園としてのコンセプトがない 観るもの、遊ぶものが少ない(資料館、水族館、レストラン、遊覧船) 管理棟の機能強化・拡充が必要である。 環境学習として使える場となる整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>楽しみを増やす(カフェ、レストラン、露店、バーベキュー場、ステージ、渡し船)</li> <li>(実施中) 佐鳴湖ウォーク等の活動の活性化 ←</li> <li>市民が自ら公園をつくる</li> <li>健康づくりの場、学習の場といったコンセプトが必要</li> <li>家族で行ける郷土学習の場にする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもは学校(小・中)で佐鳴湖を学習している</li> <li>佐鳴湖を浜松市民の環境活動・エコ活動の拠点にしてほしい</li> <li>湖岸回り「ウォーキング道」「ジョギング道」「自転車道」をそれぞれ造る</li> <li>資料館、水族館等をつくり学習機能の拡充</li> <li>管理棟の機能の拡充(博物館化)</li> <li>公園をしっかり整備する</li> <li>佐鳴湖を総合的に知るための博物館、資料館が必要(歴史、湖の成り立ち、生物など)</li> <li>遊歩道の整備</li> </ul>
		利用マナー	マナーが悪い(捨て猫、ゴミ、自動車運転等) トイレが汚い	<ul style="list-style-type: none"> <li>トイレをきれいにする(使い方と清掃)</li> <li>市民のペットマナー(アカミガメ、コイ、トリ)を上げる</li> <li>避妊手術などの取り組みを周知してもらおう仕組みをつくる</li> <li>(未実施) 市民参加型の佐鳴湖景観計画を作る ←</li> </ul>	(実施中) 公園でのイベント主催者へ「佐鳴湖浄化の周知」を依頼する ・佐鳴湖景観計画をつくる(主に建物、森)
		賑わい	観光利用なのか、環境保全なのか 人を集める工夫が少ない	<ul style="list-style-type: none"> <li>イメージキャラクターにヤマトシジミを起用する。</li> <li>自然は美しい(市民はいやされている)ことをPRする。</li> <li>ザリガニを楽しむために加える</li> <li>低年齢層の為“キノコ”などのトーテムを設置する</li> <li>ヤングファミリーを呼んで賑わいを生み出す(おもちゃ等の手段を使う)</li> </ul>	(追加) 佐鳴湖の良さ、楽しみ方を広くPRする。
	■生物生息環境の確保、保全(環境保全機能)	生息環境 周辺環境	日光が届かないため、底生動物が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> <li>湖岸に混植・密植の市民運動、宮脇式植樹</li> <li>(実施中) ヤマトシジミの再生</li> <li>樹木に名札をつけ、樹木公園にする(湖岸、川岸)</li> </ul>	(実施中) ヤマトシジミの再生 ・回収したヘドロを乾かした後、肥料として植林場所へ埋める
		外来種	外来種の駆除(動物、植物)、野良猫が多い	<ul style="list-style-type: none"> <li>外来種ミシシippアカミガメの駆除(生態を理解して駆除する) →</li> <li>猫の楽園を作る(佐鳴湖から移す)</li> </ul>	(未実施) 研究機関等と協力して防除のためのしくみづくり ・湖岸に住みついている猫は動物病院の先生方の協力を得る(避妊手術) →地域団体が避妊手術等をしている?

赤文字：第3回ワーキンググループ会議で出された意見  
 黄塗り：優先的にやりたいもの

区分	考えられる方向性 (基本方針)	課題・問題点		対策案	
				地域	行政
周辺地域に関すること	■ 地域住民との結びつきの向上	イメージアップ	ワーストワンのイメージのまま間違った印象を与えている	<ul style="list-style-type: none"> <li>目に見える変化が必要</li> <li>一年中花が咲いているようにする(春:桜、夏:ひまわり、秋:ヒガン花、冬:スイセン) 球根の方が良いかもしれない</li> <li>ひそかな楽しみを一般化する(バードウォッチング“フクロウ”)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目指す姿の設定</li> <li>“昭和30年頃の姿?” “良くして行く?” “環境が良くなる?” “「地域」?”</li> <li>佐鳴湖は市の指定文化財、名勝地であることを考える必要がある</li> </ul>
		情報提供(周知)	多様な広報手段が上手く使われていない。(関係者内のみ) 佐鳴湖での取り組みが広く周知されていない。 市長の発言、行動が少ない。	(実施中) 自治会による啓発活動の実施 (実施中) 移動環境教室(出前講座)の開催 (実施中) 啓発イベントの開催	(実施中) ポスターコンクールの実施 (実施中) 移動環境教室(出前講座)の開催 (実施中) 啓発イベントの開催 (実施中) ホームページの活用
		COD改善(水質改善)	COD 負荷大事業者、ピンポイント改善の働きが少ない	(実施中) 下水道接続・合併浄化槽設置 (実施中) 下水道接続・合併浄化槽設置の啓発 (実施中) 事業所の下水道接続・排水処理 (実施中) 自然に優しい排水の啓蒙(各家庭でできること) <b>・都市化等の情報が知りたい</b>	(実施中) 下水道の管渠整備 (実施中) 下水道接続・合併浄化槽設置の補助 (実施中) 下水道接続・合併浄化槽設置の啓発 (実施中) 事業所への下水道接続・排水処理の促進
		農業	農業者と佐鳴湖の関わりでの認識が少ない。 流域の特徴を加味した農業者支援が少ない(エコファーマー市の開催)	<ul style="list-style-type: none"> <li>農産物の青空市場を開催する</li> <li>(実施中) エコファーマーの活動(環境保全型農業の推進)</li> <li>生産者: 流域で浄化への努力をすると利益が増える(行政等認証)</li> <li>⇔消費者: 少々高価でも努めて購入する</li> </ul>	(実施中) エコファーマーの認定推進 (実施中) 土壌分析・施肥の管理指導 <b>・生コン車を洗う指導をする</b>
		雨水浸透	以前に比べ、湧水が少なくなった 雨水浸透(浸透枳、浸透舗装)性がまだ低い	(実施中) 雨水浸透ますの設置 <b>・流入河川の流域のネットワーク化</b> <b>・雨水を溜め、家庭用水として使う(天水、散水)</b>	(実施中) 雨水浸透ますの設置 ・雨水浸透ます設置の義務化(特に新築住宅について流域全件: 平等化) ・駐車場の舗装を浸透性にする(〇㎡以上には義務化する)
		アクセス	車でないと来られない JR 浜松駅、高塚駅から来にくい 佐鳴湖までの案内(サイン)が少ない		<ul style="list-style-type: none"> <li>浜松駅からでなく佐鳴湖からLRTを計画する</li> <li>自動車道に制限をする(例: 西岸には入れない)</li> <li>より安全な佐鳴湖(遊歩道の安全: 防犯所等の配置)を目指す</li> <li>バス停の整備</li> <li>浜松駅(または高塚駅)からバス路線を作る</li> <li>→入野ボート場や西側公園にできれば直行できるように</li> <li>都市計画道路の整備</li> </ul>
	維持管理	市民参加が少ない。(アダプトプログラム活用)	(実施中) 路面・側溝清掃の実施 (実施中) リバーフレンドシップ制度の利用 <b>・アダプトプログラムの活用</b>	(実施中) 路面・側溝清掃の実施 (実施中) 佐鳴湖公園にゴミ袋を設置し、ゴミを持ち帰ってもらう (実施中) リバーフレンドシップ制度のPR	
	■ 地域循環型社会の形成	緑地保全	まとまった樹林が少なく、市街地が近接している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>どのように植樹をすすめることができるか</li> <li>みどりの保全のため、どうするか について、学習会を開催する。</li> <li>(実施中) 寒緋桜などを市民(住民)が主体となって植栽</li> <li>(実施中) 花いっぱい運動(花壇や休耕地などの活用)</li> </ul>	(実施中) 「市民の森」の適切な維持管理 「特別緑地保全地区」や「緑地保全地域」等を積極的に保全する <b>・ルールに基づいた樹木保全をする</b> <b>・今ある緑を守る</b> ①市民の森をさらに広める ②段子川、新川だけでなく、流域全体に広める
		環境学習	広く環境学習の場として使えるプログラムが少ない(周辺の小中学校のみ)	(実施中) 移動環境教室(出前講座)の開催(情報提供と重複) (一部実施) 小学校等で独自の環境学習のプログラムを開発する。	(実施中) 移動環境教室(出前講座)の開催(情報提供と重複)
		物質循環	しくみが上手く機能していない。	(実施中) 刈ったヨシの再資源化・活用	(実施中) 刈ったヨシの再資源化
	■ その他			<ul style="list-style-type: none"> <li>やること、やることの優先度を定める</li> <li>やりたくないこと、やってはいけないことを議論する必要がある</li> <li>災害、安心(地盤(高水位)、地震、高潮)への対応等を示したい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>防災(治水)対策を具体的に定める</li> <li>県及び市当局は地域協議会の決議を率直・スピーディーに予算化・仕組み化する</li> </ul>

第2回で出された意見

将来像のキーワード

将来像のイメージをまとめてみると・・・

(将来像を表すキャッチフレーズ)

**【イメージ】**  
 いやされる佐鳴湖  
 あなたです。佐鳴湖をきれいにするのは

---

**【利用】**  
 泳げる佐鳴湖  
 はだしであそべる佐鳴湖  
 船で遊べる湖  
 屋形船を浮かべて遊べる湖（花火を見る）、冬の夜  
 写生の出来る佐鳴湖（写生大会をしよう、又は、写  
 生の勉強会が出来る）  
 湖からお花見が出来る佐鳴湖  
 学べる佐鳴湖  
 佐鳴湖を市民に紹介する場所（植物、道、自然等）  
 であいの佐鳴湖  
 彼と彼女の佐鳴湖  
 休日どこ行く！「佐鳴湖へ行くか」が日常に

---

**【資源】**  
 漁業の活性化  
 ヤマトシジミ復活

---

**【環境】**  
 生物多様性  
 環境活動・エコ活動の拠点（メッカ）へ  
 命の森づくり（市民植樹）  
 実質的な環境教育プログラム  
 豊かな湖棚

---

**【位置づけ】**  
 都会の中のオアシス  
 子どもから御老人まで集う佐鳴湖  
 地域と佐鳴湖に“誇り”を持つ  
 みんなの佐鳴湖  
 安全な佐鳴湖（防災、防犯）  
 湖岸に湧水池  
 佐鳴湖大好き（親水）／現状（状況調査）  
 情報提供（認識）、共有化（活用）

- |         |      |
|---------|------|
| よみがえれ   | 楽しい  |
| 美しい     | 泳げる  |
| きれいな    | 遊べる  |
| 豊かな     | 学べる  |
| 漁業資源    | 出会い  |
| 自然      | 癒し   |
| 生物多様性   | オアシス |
| 環境活動    | 集う   |
| エコ活動    | 誇れる  |
| 拠点（メッカ） | 大好き  |
| 生命の森    | みんなの |

※緑色はルネⅡの目標、朱色は前回キャッチフレーズとして出されたキーワード

<水質・水量>  
 ●泳いだり、水遊びをしたり、昔のように資源を活用できるきれいな里湖（さとうみ）。  
 「よみがえれ、佐鳴湖」  
 ○「浜松の瞳、佐鳴湖」戦前のきれいな姿に。南岸の整備（公園）

<レジャー、観光>  
 ●都市の中で自然とふれあい、癒しや楽しみ、人と人の出会いが生まれる。  
 「都会のオアシス、佐鳴湖」  
 ○「駅を降りたら佐鳴湖へ」（浜松駅→浜松上→博物館→佐鳴湖）、水がきれいでゆっくりできる。歴史を感じ、自然を感じる。富士見橋から富士山を逆さまにみる  
 ○「誰でもいってみたいくなる魅力のある佐鳴湖」

<自然、生物>  
 ●湖面や湖岸から美しい景色を愛でたり、多様な生物や環境について学べる。  
 「生命の源、佐鳴湖」  
 ○「花と緑のあふれる佐鳴湖」桜、あずまやのチューリップなど  
 ○「豊かな湖棚」、集客の仕組みづくりをする。市制 100 周年にあわせ、まち全体のデザインの中に佐鳴湖を1つのテーマにする  
 ○「生命の源」各家庭で木を育て佐鳴湖に植える、シジミで自然豊かに  
 ○「見ていてきれい。花と緑で癒される佐鳴湖」  
 ○「佐鳴湖大好き」自然、生活の場、市民の宝  
 ○「四季の花、生物を感じられる佐鳴湖」

<環境活動>  
 ●みんなが大好きで人が集い、出会いが生まれ、環境活動やエコ活動などの拠点となる。  
 「地域の誇り、佐鳴湖」  
 ○「市民がみんなで作る佐鳴湖」緑化、エコ活動